

上場企業株式インパクト投資の取り組み

りそなローカルインパクト投資



りそなアセットマネジメント

2021年4月15日

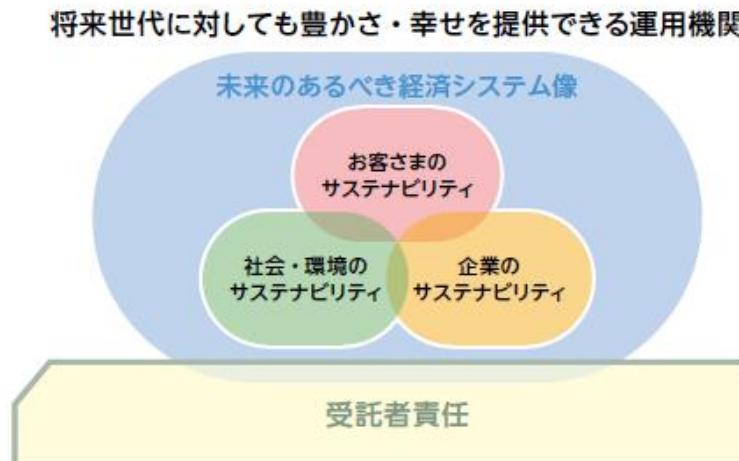
- ・りそなローカルインパクト投資とは
- ・上場企業株式インパクト投資を巡る論点

りそなローカルインパクト投資とは

りそなアセットマネジメントのパーザス

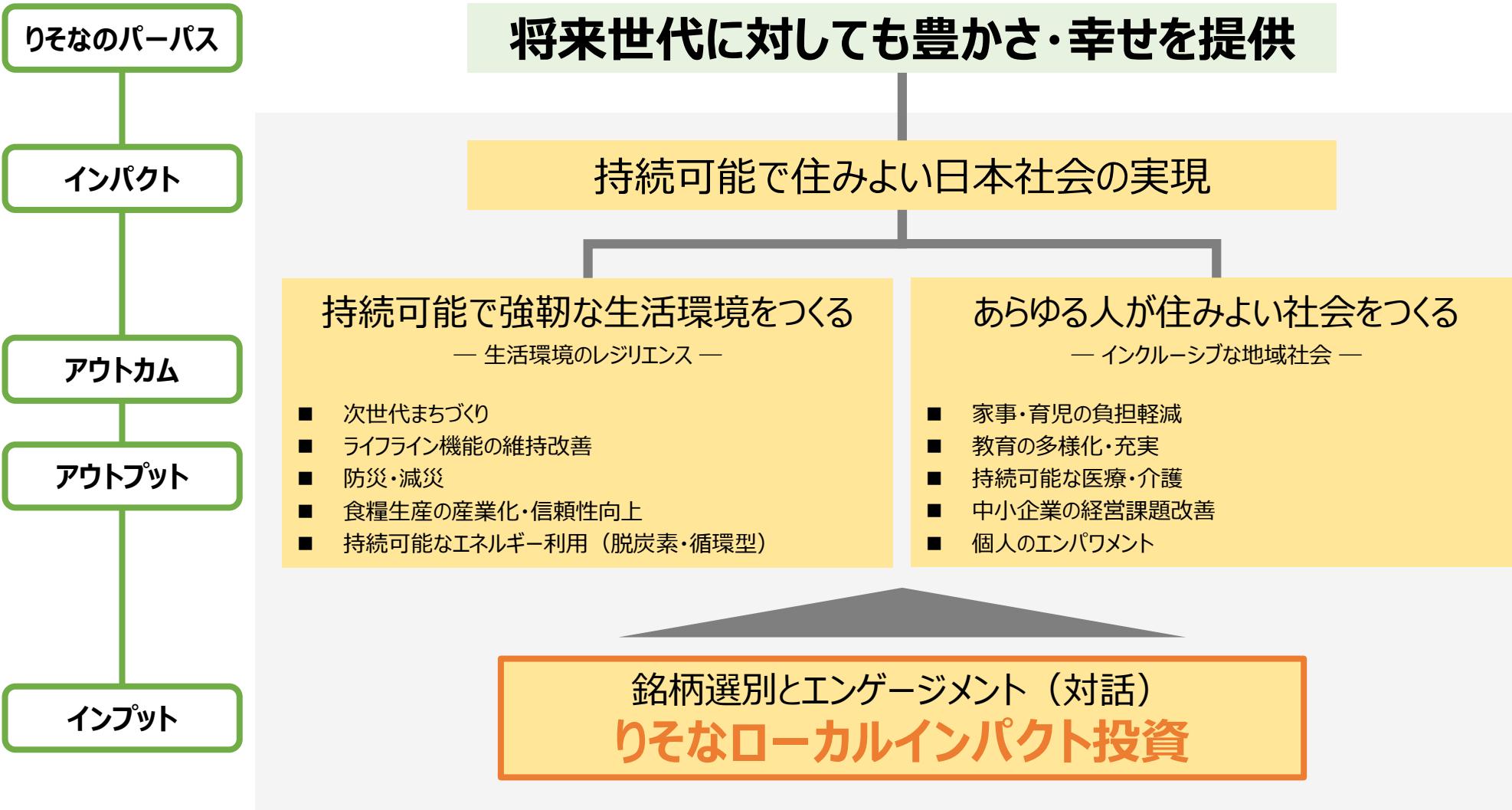
投資先企業がサステナブルであり、企業活動の基盤である社会・環境がサステナブルであることが、お客様のサステナビリティにつながると考えます。

当社は責任投資活動を実践し、未来のあるべき経済システム像を実現していくことで、**将来世代に対しても豊かさ・幸せを提供できる運用機関**として、受託者責任を果たしてまいります。



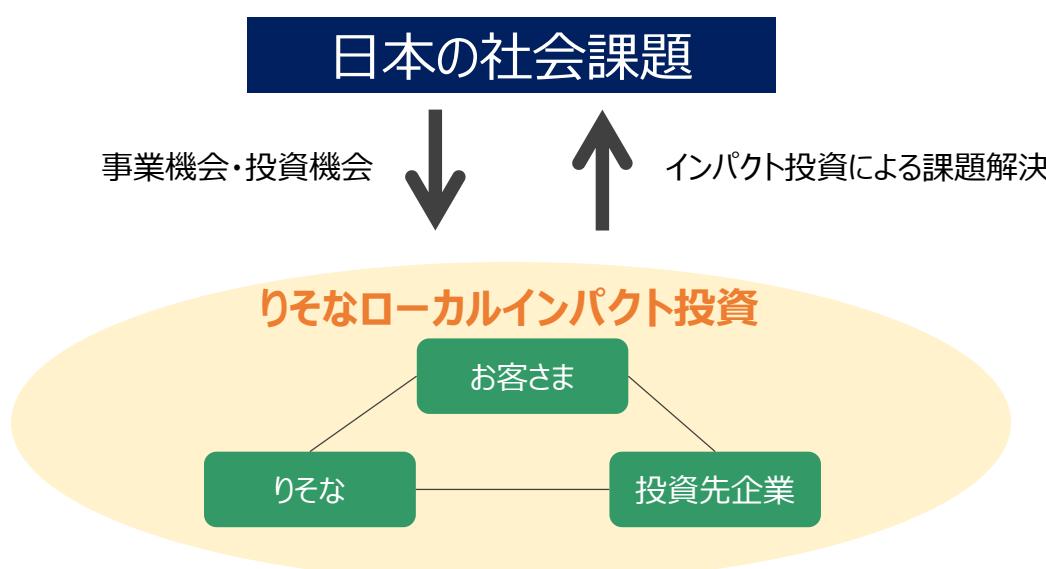
(参考) スチュワードシップレポート2020/2021
https://www.resona-am.co.jp/investors/pdf/ssc_report2020-2021.pdf

パーサスを起点としたインパクト投資

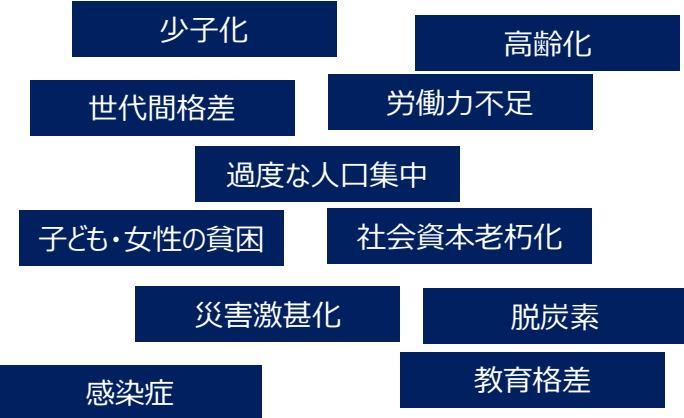


なぜ日本の社会課題を対象とするのか

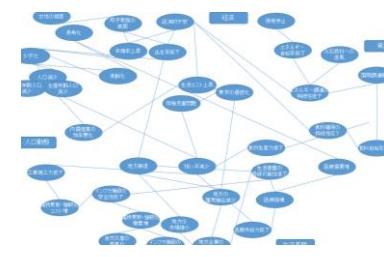
- お客様、投資先企業、りそながそれぞれ**自分ごととして問題意識を共有**し、長期持続的に課題解決に取り組むことを目指す
- 構造的かつ複合的な課題**に対し、事業規模の大きさや活動領域の広さなど上場企業株式投資ならではの特色を活かす
- 日本社会の一員として**事業機会・投資機会への気づき**を活かす



持続可能性を脅かす社会課題



多数の課題要素が複雑に関連しあった
負の連鎖構造



運用手法のポイント

付加価値源泉

- ✓ 銘柄選別
社会課題解決の実行力・推進力とそれに伴う成長期待を評価する
- ✓ 対話・エンゲージメント
企業の取り組みを後押しし、目標の実現確度を高める

保有期間

- ✓ 長期継続保有（10年超を想定）
- ✓ 十分なインパクトを生み出すためには長期継続的な関与が必要
- ✓ インパクトの創出をドライバーとして企業価値拡大を継続する期間にわたり保有する

売却基準

- ✓ 目標が十分に達成されそれ以上のインパクトを生み出す余地がなくなった場合
- ✓ 経営の方向性や実行力が大きく変化しインパクト生み出す期待が低下した場合
- ✓ 想定以上の株価上昇など保有を継続する経済合理性がなくなった場合

運用プロセス

<投資対象は国内上場企業>

対象課題の設定

- ✓ トップダウン・ボトムアップ両面から対象とする課題領域を設定



◀ 定性スクリーニング：設定した社会課題の解決に関連する企業を定性的に評価

潜在候補銘柄の抽出

- ✓ 潜在候補100-150銘柄を抽出
- ⌚ IMPのフレームワークを活用して期待するアウトカムを具体化



◀ 対話：目指す目標を共有し、実現のための具体策を確認

有力候補銘柄の選定

- ✓ 有力候補50-70銘柄を選定
- ⌚ ロジックツリーの作成とKPIの設定により、社会的インパクト創出の経路を可視化



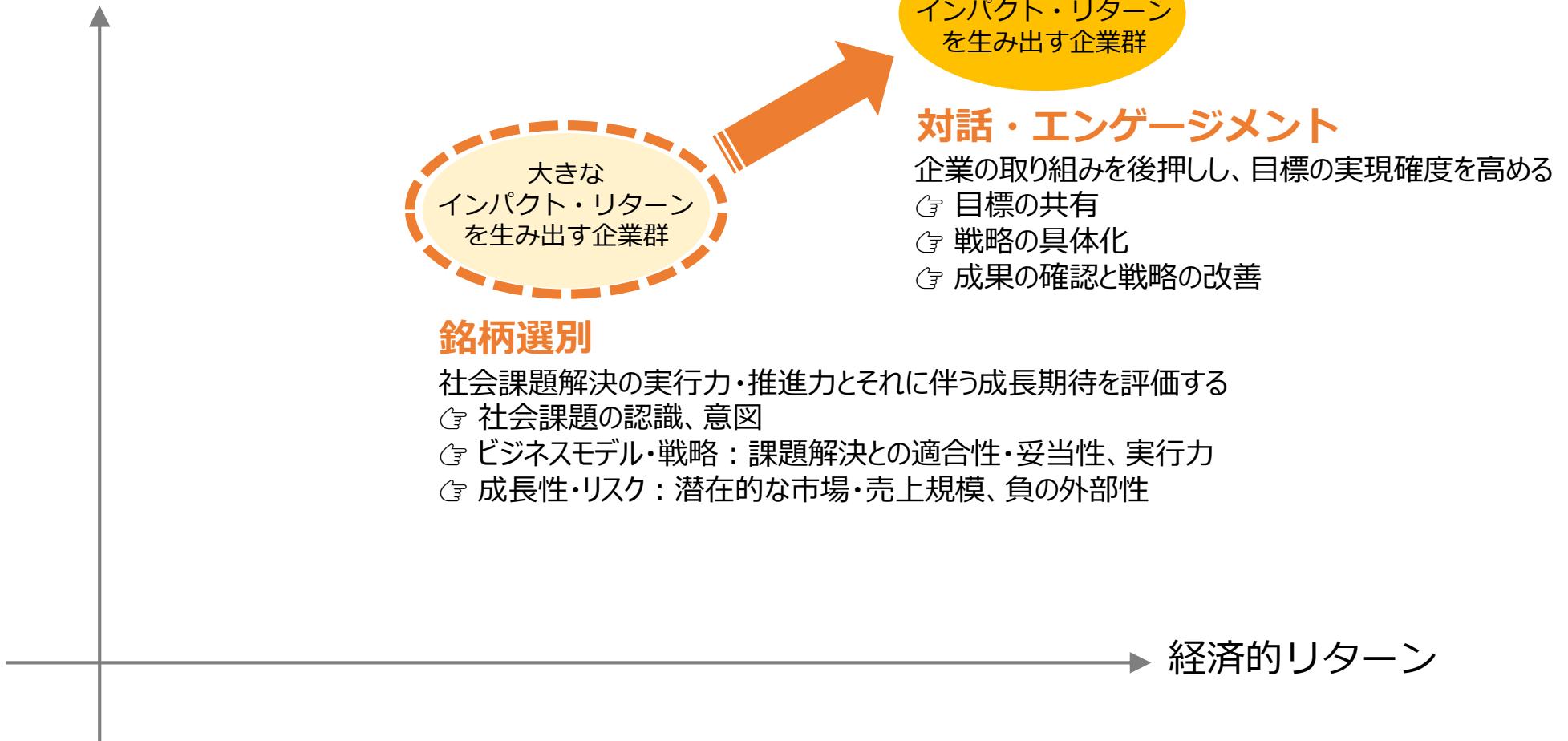
◀ 深掘り調査：「社会的インパクト」と「経済的リターン」の実現力を精査

ポートフォリオ

- ✓ 投資銘柄20-50銘柄を決定
- ⌚ インパクト創出・経済的リターンの両側面から定期的にモニタリングを行い、投資方針・戦略を調整

付加価値源泉

社会的インパクト



課題項目ごとの投資比率

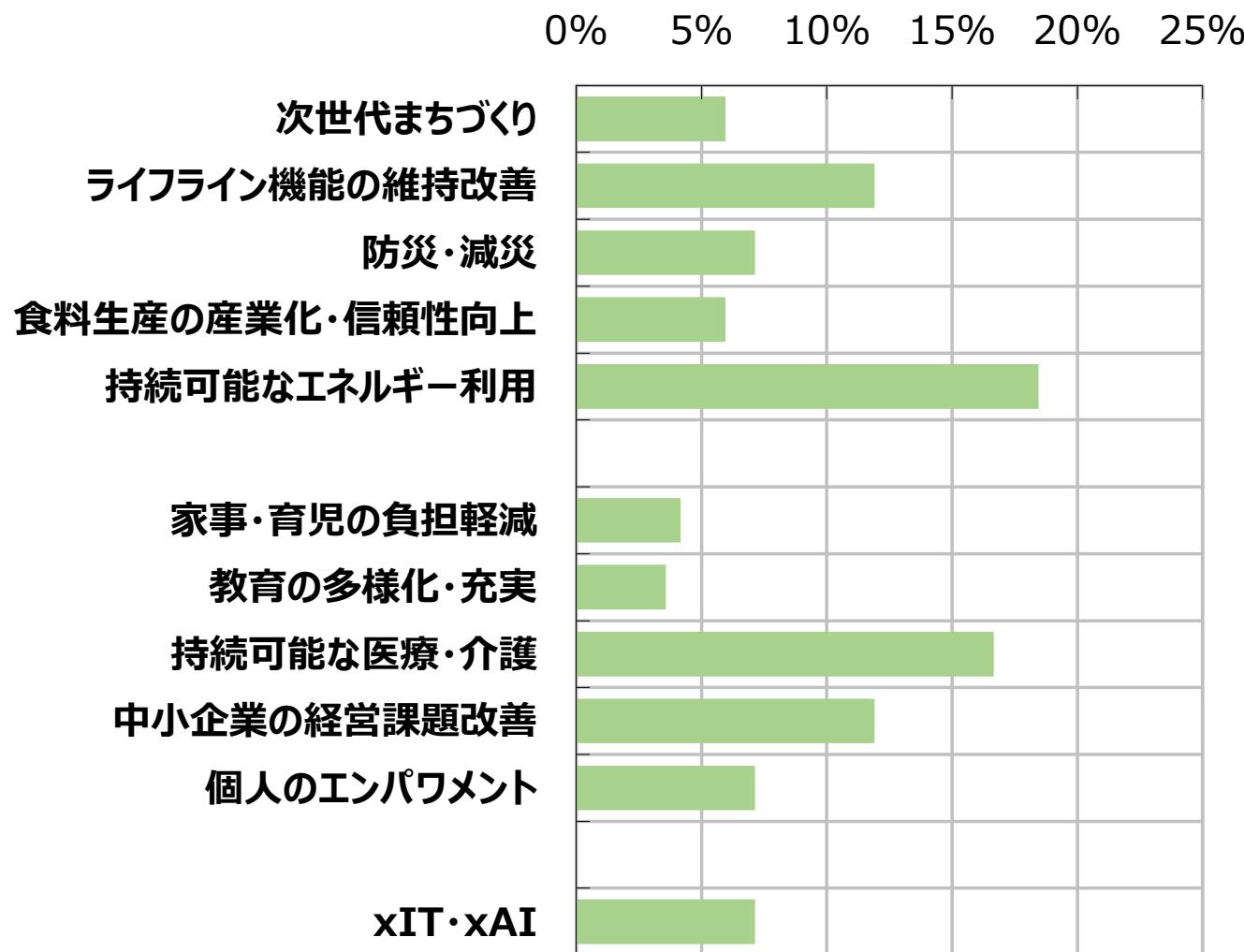
持続可能で強靭な生活環境をつくる
生活環境のレジリエンス

12銘柄49.4%

あらゆる人が住みよい社会をつくる
インクルーシブな地域社会

11銘柄43.5%

2銘柄7.1%



なぜ上場企業株式インパクト投資が必要か

- ◆事業規模の大きさ・活動領域の広さ・リソースの豊富さ
- ◆インパクト投資の大衆化
- ◆長期伴走する投資家の必要性

意図とはなにか

- ◆投資家の意図、運用者の意図、投資先企業の意図…
- ◆意図の有無とは
- ◆意図の有無の把握

成果の把握

- ◆エンゲージメントを通じたIMM
- ◆事前の評価と事後的な計測
- ◆何のために計測するのか